

# 知る

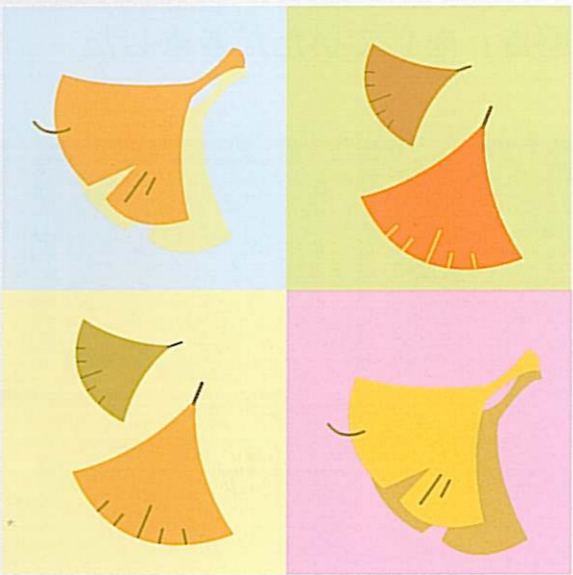
基開上人  
西山別院  
連載  
如覚

第3回

## 覚恵法師

覚如さまのお父様である覚恵法師は、覚信尼（親鸞聖人の末娘）さまの子で、父の日野広綱氏の没後に青蓮院に入れ出家されました。これは、母方の祖父が僧侶なら、その息子は出家しなければならないという鎌倉時代の慣習によるもので、覚恵法師は出家の道を選ぶしかありませんでした。そして、青蓮院の熾盛光院で主に密教を修行されていたと伝えられています。一方、覚信尼さまは広綱氏と死別され、そののち小野宮禪念氏と再婚されます。覚信尼さまは京都大谷北地、親鸞聖人の墓所近くにあった禪念氏の敷地内に、文永九年（一二七二）、廟堂を建立されそこに親鸞聖人の墓を移されました。これが「大谷廟堂」であります。廟堂建立の二年後、文永

十一年（一二七四）四月十七日、禪念氏は廟堂の土地を覚信尼様へ譲られ、翌年の建治元年に亡くなりました。覚信尼さまはこの土地を「廟堂」へ寄進され東国門弟の所有地となり、運営費用はすべて門弟が出し合いました。ふだんの管理（留守職という）は覚信尼さまが当たられ、以後は覚信尼さまの子孫が東国門弟の了承を得て就任することとし、覚信尼さまは、広綱氏との間にできた長男の覚恵法



師を「廟堂」の留守職に指名され、弘安六年（一二八三）十一月二十四日、そのことを東国門弟たちに手紙で通告されました。覚信尼さまはこの後まもなく亡くなったそうです。永仁三年（一二九五）、当初は堂内に石塔だけが立っていた廟堂の中に親鸞聖人の木像を安置するようになり、これ以後は「大谷影堂」と称するようになりました。ところがこの後、留守職をめぐる大きな事件が起りました。

正安三年（一三〇一）、親鸞聖人の長男とされる即生房の孫である源伊が留守職就任を主張し、引き続いて覚信尼さまと小野宮禪念氏の間生まれた唯善が留守職を希望しました。唯善はこの時に覚恵法師を大谷から追放し影堂を占拠しました。これを受けて覚恵法師は、この事件の解決を長男である覚如さまに託し、徳治二年（一三〇七）四月十二日に覚恵法師は亡くなりました。

本願寺西山別院報

# 久遠

〒615-8107  
京都市西京区川島北裏町  
29番地  
Tel: 075-392-7939  
Fax: 075-394-4416  
発行者: 寺井 紹道

## 「平和」と「平和」

本願寺西山別院輪番 寺井 紹道

有史以来、人は争いによって計り知れないほどの悲劇を繰り返しています。愚かだと知りながら……。

「物が栄えて、心が亡びる」といわれ、現代はあらゆることに問題提起がなされ、益々混沌の度を深め、激動・不安の様相を呈しています。その中で、特に「いのちの尊厳」が叫ばれています。

生物学者のドーキンス博士は「遺伝子のからくりを調べると、自己保存（他を犠牲にしても生きのびる）と自己複製（子孫を残す）の二つの戦略がある。この遺伝子に「ントロール」されて行動する動物は、とれほど「生命

の尊厳」といっても、それは自分の生命が保障されるかぎりのことであって、いよいよ自分の生命が危ないとなると、相手の生命を奪ってでも生きのびようとする。だから、「生命の尊厳」はもともと実現不可能である」と述べています。

そこで、仏様の教え（お念仏）を拠り所とされておられ、お医者さんでもある念仏者・田畑正久先生は、「それを超えるには、仏さま（お念仏）のいのちの世界にめざめることが必要である」と言っておられます。遺伝子の戦略という科学的生命観は、ちょうど海上の島々を見ているようなもので、目に見える個々の島は孤立しているけれども、水面下の海底ではどの島もみんな大地でつながっています。仏さまのいのちという大地で私の生命も他のすべての生命も広くつながっていることに気がつくことが、「生命の尊厳」を徹底する原理があります。あらゆる衆生を仏に成せよとする仏の願いにふれたとき、自分だけが可愛いというだけで生き、相手をた

だ利用価値でしか見ていない私が、そのことを「すまない」と深く痛み、私以外の、その他のすべての生命を大事にしていこうとする心が生まれてきます。

仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。「いのち」が尊ばれ、「平和」で心豊かに生きることでできる社会の実現に向けて、共に手を携えて努力いたしましょう。

合掌



# 報恩講【10/22・10/23】



法要をお迎えする前に仏具の「お磨き」をしていただきました



ご参拝の皆さま、北浦思朗先生、ありがとうございました



子どもさんのアトリ作品展、コールサーラによる美しい歌声も  
法要に華を添えていただきました

# 第34回 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 団体参拝 【9/18・9/19】



今年も東京千鳥ヶ淵の全戦没者法要にお参りさせていただきました



法要参拝の後は、屋形船や「はとバス」で東京観光を楽しみました



「テレビ朝日アトリウム」